

## 大谷先生の思い出

坂上裕之

核融合科学研究所 へリカル研究部核融合システム研究系

〒 509-5292 岐阜県土岐市下石町 322-6

sakaue@nifs.ac.jp

平成 28 年 3 月 1 日

大谷俊介先生があの世界に旅立たれてからもう二年が過ぎてしまいました。私のつたない文章で先生への思いを語るのはおこがましいのですが、少しおつきあい頂ければ幸いです。

私のはじめて大谷先生をお見かけたのは、上智大学の鈴木洋研究室に大学院生としてお世話になって、間もない頃でした。大谷先生は、鈴木先生を訪ねていらして教授室で研究打合せをしておられました。その頃私は世間知らずの学生でしたから、「誰が来てるんだろう？」とその姿をちらっとドア越しに拝見(盗み見)したのですが、その大谷先生の迫力の風貌に、小心者の私はいきなり見ただけでびびってしまいました(失礼)。そのとき、怖そうな先生が来ていると研究室の学生同士でコソコソ話をした覚えがあります。

その後、大谷先生が何度か上智にお越しください、そんなある日、鈴木先生から「こちらに来て一緒に飲みませんか？」とお声がかかりました。恐る恐る打合せ(飲み会?)に同席させていただき、はじめて大谷先生のお話をお聞きすることができました。そのときの様子は、今も忘れることができません。大谷先生の流暢な、しかも迫力のある物理のお話へのめり込んでいきました。その後も何度かお越し頂き、多価イオン物理の面白さ、海外の動向、理化学研究所での研究計画の話、などなどいろいろなお話を、研究者でもない我々学生に説明していただきました。その面白さといったら言葉に言い表せない、なにか心の奥底に響き、ワクワクしてくるような、そんな気持ちが湧いてくる飲み会なのです。僕らは、そんな大谷先生との飲み会での物理の話が楽しくなりませんでした。幸い理化学研究所で始まった多価イオンの研究に参加することができ、大谷先生とのお付き

合いが始まり、私は非常に幸運でした。良いデータが取れると「このデータを酒の肴に飲むぞ！」ってな感じで、名古屋のプラズマ研究所の NICE の共同研究では、近くの中華料理店「太平閣」(夜中の3時頃まで営業していた・・・というか我々のために開けていてくれたらしい)に毎晩集まって飲みながら、ああでもない、こうでもない議論していたのを覚えています。偉い先生も一介の学生も隔てなく議論できるその雰囲気最高でした。ちなみに、この太平閣、今でも本家で営業しています。ただ、ちょっと小綺麗になり昔の面影が無いのが残念ですが----

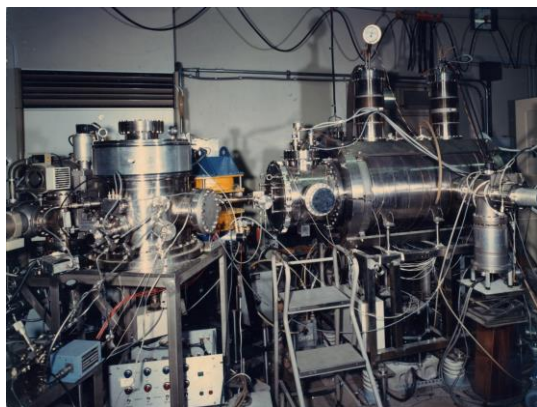
また名古屋で大谷先生と行った、忘れてはならない飲み屋は「大甚」(地下鉄東山線伏見駅)です。ここは NICE 創世記から大谷先生のお気に入りのお店で、共同研究のメンバーにとっては忘れることのできない聖地であります。ここで色々な物理の話など議論し、いろいろなことが生まれた場所でもあるそうです。



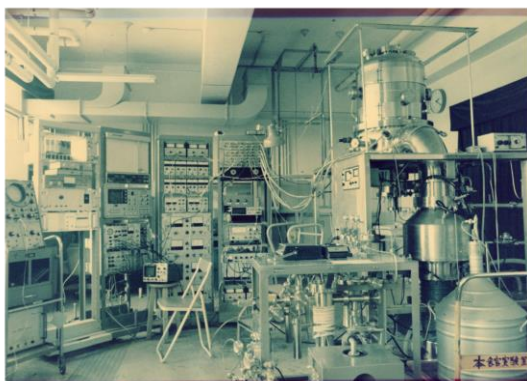
大谷先生とよく行った大甚の店内(ホームページより)

私は今でも共同研究者と共にここを訪れますが、毎回大谷先生を思い出して飲んでいきます。

NICE と書きましたが、金子洋三郎先生を中心とした、言わずと知れた大谷先生のプラ研時代の共同研究です。また、ACE と銘打った鈴木洋先生を筆頭にした共同研究もありました。それらの当時の写真がありましたのでご披露いたします。



プラズマ研究所時代の NICE



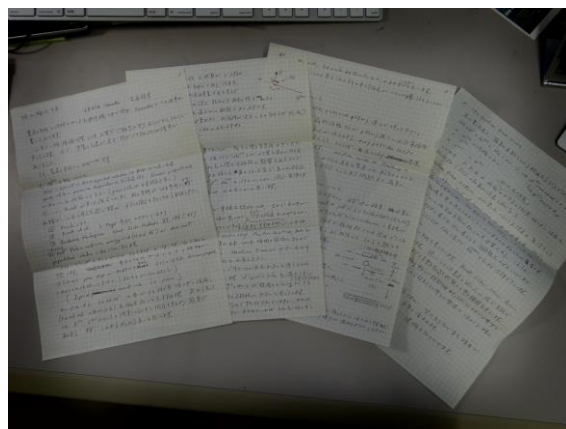
プラズマ研究所時代の ACE

この当時は非常に自由だったようで、大谷先生は共同研究の合間に、プラ研の中 2 階のベランダのような場所でバーベキューをして皆さんをもてなしていらっしゃいました。その様子を当時、他のグループの学生だった方(今では教授)が、「楽しそうに和気藹々飲んでいる姿がうらやましくて、そんな共同研究に憧れていた」とおっしゃっていました。僕などは大谷先生の足下にも及びませんが、なんとかこのような共同研究の良い雰囲気を受け継ぎたいと日々過ごしております。

話はまた私の学生時代に戻りますが、私が就

職先で悩んでいたとき、大谷先生が「じゃ飲みに行こう」と相談にのってくれたのを今でもはっきり覚えています。和光市の居酒屋(理研の近く)でした。二人で飲んだのはそのときが初めてで、ちょっと緊張していたのを覚えています。そのとき僕は、就職先がそのときの研究と違っていただけで悩んでいました。大谷先生は「そうだな、5年間、臭い飯食って来なさい。そうしたら新しい道が開ける。それでもこの研究がしたければ、戻って来たらいいですよ。」とおっしゃってくれました。そのとき目の前が開けたように思えました。いま思えば、これから、研究者としての厳しさが待ち構えていることへの忠告と、でも頑張れば必ず報われること、しかも「戻ってきてもいいよ」という大谷先生の優しさがにじみ出ていて、思わず目頭が熱くなってしまう。(実際は5年ではなく4年で戻って来てしまいましたが---。)

そんな学生時代に大谷先生からいただいた手紙を大事にとってあります。大谷先生と親しい皆様もきっと大谷先生からの手紙の思い出を持っていらっしゃると思いますが、私もその一人で、一学生への教授からのお手紙ですから、それはそれはびっくりしました。フランス・グルノーブルからのお手紙で 4 ページにわたり、私の実験結果についてのコメントやこれからの研究の指針、海外の動向それにフランスの様子など、大谷先生のお人柄が表れたお手紙で、今でも大切にしまっています。



大谷先生からいただいたお手紙

その後大谷先生が電通大に移られ、一層お忙しくなられ、なかなか名古屋にいらしていただ

る機会が少なくなっていました。平成23年5月に NICE 同窓会を名古屋で開催することができ、NICE グループの皆様にご出席いただきました。そのときの写真も添付いたします。これが NICE グループで集まった最後かも知れませんね。



平成23年5月 NICE 同窓会 NIFS 宿舎にて  
右奥にいらっしゃるのが大谷先生

思いつくままに筆を走らせてしまい、読みにくい文章になってしまい申し訳ございません。しかし、まだまだ書き足りないことばかりです。また機会がありましたら皆さんと飲みながら大谷先生の思い出話を語り合えれば思っております。では、大谷先生のご冥福をお祈りいたしながら、皆様失礼いたします。

P.S. ちなみにあの本山の  
太平閣はこんなモダン  
な中華料理屋に変貌し  
ていました。

